

受講番号 19030 学校名 高知西高等学校 氏名 岡林 智子

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年1ホーム 生徒数 28 名
科目名 英語 I 単位数(授業時数) 3 時間 使用教科書名 WORLD TREK I、CORPUS入試頻出4500

クラスの様子・特徴

少人数編成だが習熟度別ではなく、学習に対する意識はまちまちな集団である。生徒は概ね明るく素直で、学習態度も概ね良い。家庭学習の習慣がしっかりとっている生徒は少ないが、提出物は9割の生徒が欠かさず提出する。音読には積極的である。

問題の確定

3年次には理・社の比重が大きいため、生徒に1年次から大学受験に対応できる英語力を徐々に付けたいが、生徒の意識は低い。

予備調査

A 授業の観察

中学段階の基本的事項ができていない生徒でも、授業中、ペアワークで行っている音読や語彙インプットのトレーニングを積極的に行う。声を出し、ペア活動や全員参加でトレーニングすることが全体の語彙力アップに有効な環境であると思われる。

B 生徒による授業評価

生徒へのニーズ調査の結果からも中学校で音声中心の授業が展開されていたと推測できる。語彙力向上に苦手意識を持っている生徒は多い。1年生の始めであるせいか、「自分につけた力」は「大学受験に対応できる力」よりも「会話力」などが主流である。

C 学力データ

7月実施の進研模試の平均得点率を見ると、この集団は他の普通科クラスと比べて若干低い。分野としては、「リスニング」と「会話表現」以外は県内平均を下回った。特に「長文読解」「表現力」が弱い。

リサーチ・クエスト

高校1年生の段階で、授業でどのような活動を展開すれば、大学受験レベルの英語の語彙力の増強ができるのか。また、教科書の語彙の定着が図れるのか。

仮説・実践・検証

仮説1

定期考査で好成绩をあげ達成感を味わうためにも、特に下位層が毎日の授業を通して教科書語彙の完全定着を目指すことは不可欠だ。英語のつづりを見て発音することはできるが書くのは不得意な生徒もいるので、ペアで各課の語彙リストを口頭のみで確認しあう作業を毎時間繰り返せば、下位層でも語彙の定着がよくなるのではないかな。

実践1

各課の語彙リストの語彙をすべて毎時間発音して確認しあう。①教員が英語発音→生徒が英語発音(一斉)②教員が日本語の意味を言う→生徒の英語発音(一斉)③一人の生徒が日本語だけ見ながら英語を発音、ペアの生徒はヒントを出しながら、言うことができた語彙をチェックする(ペア)。この3活動を毎時間始めに必ず行う。(ただし、語彙リストの導入の日には発音がきちんとできるかだけをチェックしようにする。)

検証1

生徒の持っている語彙リストプリントのチェック欄をみると、下位層の生徒でもチェックの最終回にはほとんどの語句を言えるようになっている。よくある「筆記単語テストを合格するために勉強する」という動機付けで定着を図るよりも、語彙の意味定着が高いように思う。つづりの定着は望めないが、もちろん発音の定着は高い。また、慣れると「筆記語彙テスト+新出語彙の導入」より短時間で済むので効率的な授業の導入方法といえる。

仮説2

大学受験向けの語彙集を1年次からませ、週明けテストの出題範囲としている。しかし、この活動を通して1年次にどれだけ語彙力が向上できているかは案外検証されていない。テスト等での仕掛けをもっと増やしていけば、特に中上位層の生徒には「語彙集の中で勉強した範囲はいつでも使える語彙でないといけない」という意識づけができるのではないかな。

実践2

定期考査に、語彙集の既習の語彙を含んだ和訳応用問題を出題する。週明けテストの出題25問中に、必ず5問は前の範囲からの出題にする。長期休業明けの課題テストに、語彙集から総復習の出題をする。繰り返し出題されるたびに自宅でのCDを使っでの復習を促し、同時に補習の時間内に全員でトレーニングする。教員が「今まで200語勉強した」「この単語は語彙集でもうやった」というような意識づけの言葉を発する。

検証2

定期考査での出題は生徒にも教員にも意識を変える上でインパクトがあったと思う。また、模試を受けるたびに未知の語彙に翻弄されるという現実にあるためか、生徒は授業や学校のあらゆるテストの機会に受験語彙集の内容を勉強することをすんなり受け入れている。アンケートによると、自宅での範囲を機会ごとに復習しているという生徒は少数だが存在する(14%)。

仮説3

授業内の語彙集の語彙トレーニングを楽しく繰り返せる工夫をし、生徒が語彙ごとに効果的な暗記の仕方を見つけることの助けができれば、語彙集の暗記が効果的に進み、大学受験時まで語彙力を保持することにもつながるのではないかな。採択した語彙集は音声CDつきで語源解説等もあり、語彙を覚える上で役に立つ部分が多い。授業ではさらにその効果をヴァージョンアップさせるトレーニングをしたい。

実践3

毎日の授業では教科書の語彙をトレーニングしているので語彙集の語彙まで時間が取れない。しかし、週明けテストの前には必ず全員で全範囲の単語の「発音→意味→発音」を最低5回は繰り返せるようにする。また、新しい範囲の単語のカードを必ず作り、本から離れ前を見て発音する機会をつくる。その際、単語を提示しながら、語源、語幹、関連語、だじゃれ等暗記の助けになることをできるだけ発音するようにする。

検証3

単語カードの使用は、生徒には中学校時代への郷愁もあるだろうという単純な発想で始めたが、あらゆる点で便利な教材として活用できたため、1年間自作を続けることができた。カードを提示してクラス全体が競うように意味を言い合ったり、意味が出ない時にはヒントを出したり、だじゃれのような覚え方を言って笑ったり、教員も生徒も楽しめた。大多数の生徒が授業中に語彙集の語彙を皆で声を出して覚えることは有効だと答えている。

研究の成果

教員が問題を意識し、そこから目標を設定し、具体的に実践・検証するプロセスは大切だと分かった。そして何より大切なのは、学年団で統一した指導を行なっていくチームワークだとわかった。「仮説2」の内容については、学年団統一でこのような出題方針を貫くことができ、その結果、生徒に対して語彙学習における繰り返しの重要性を強調し指導できたと思う。11月実施の進研模試の結果を見ると、学年の平均偏差値が7月と比べて1.1上昇し、前年度の1年生の同時期の数値と比べても上昇した。

今後の授業改善の課題

週明けテストの出題25問中5問はつづりを書かないといけない問題だが、「毎回英語を書いて勉強している」のはアンケートによると2分の1の生徒だけである。今まで「書く」技能に関する指導がほとんどできていない。模試の結果を見ても、相変わらず「表現力」は低いままである。2年次に始まる「ライティング」への布石として、系統だった「書く」指導を何か始められないか模索中であり、今後の課題であると考えている。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

088-844-1221

電子メール